

呉工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	現代文
科目基礎情報						
科目番号	0084		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『現代文B』（三省堂）					
担当教員	上芝 令子					
到達目標						
1. 日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を正しく読解すること。 2. さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけること。 3. 作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を正しく読解することができる		日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を読解することができる		日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を読解することができない	
評価項目2	さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけることが適切にできる		さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけることができる		さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけることができない	
評価項目3	作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につけることが適切にできる		作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につけることができる		作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につけることができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	1年次での「国語総合（現代文）」に引き続き、国語を的確に理解し、適切に表現できる基礎学力、日本語日本文化に関する見識を身につけるために、現代日本の思想や文化を代表する評論・小説・詩などを学習する。					
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜課題提出も課す。					
注意点	授業に対する真摯な態度が何より基本である。作品を理解し、自らの頭でしっかり考える力を積極的に養おうとする姿勢が重要である。発想の幅を広げ、自由にものを見る思考のレッスンにより、教養の幅を広げていってもらいたい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、中島敦の文学		1. 小説：山月記（中島敦） 東西の芸術観の相違点、美意識の異なりについて考える。 今日に生きている伝統的な美意識について各自で思考をめぐらす。	
		2週	中島敦「山月記」			
		3週	中島敦「山月記」			
		4週	中島敦「山月記」			
		5週	中島敦「山月記」			
		6週	中島敦「山月記」			
		7週	中間試験			
		8週	丸山真男「である」と「する」こと		2. 評論：「である」と「する」こと（丸山真男） 論理の展開を的確にとらえる。 筆者の主張をさまざまな角度から批評する。	
	4thQ	9週	丸山真男「である」と「する」こと			
		10週	丸山真男「である」と「する」こと			
		11週	丸山真男「である」と「する」こと			
		12週	丸山真男「である」と「する」こと			
		13週	宮沢賢治「永訣の朝」		3. 詩：永訣の朝（宮沢賢治） 作品の主題と心情を理解する。 宮沢賢治の他の詩を読み、鑑賞する。 作者や背景についての知識を深める。	
		14週	宮沢賢治「永訣の朝」			
		15週	期末試験			
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	

				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3		
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3		
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3		
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3		
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3		
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3		
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3		
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3		
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0